

ウィキペディア記事「ユーザーエクスペリエンス」の執筆趣意書

2016年12月28日

石橋秀仁

hidetoi@gmail.com

<http://ja.ishibashihideto.net/>

〔最新情報:2017年9月14日、既存の「[ユーザーエクスペリエンスデザイン](#)」というページを、新規投稿した「[ユーザーエクスペリエンス](#)」に統合したことで、いったん執筆プロジェクトを完了とします。〕

執筆の動機 ～ なぜウィキペディア記事「ユーザーエクスペリエンス」を執筆する必要があるのか

学生はすでにウィキペディアに依存して学習する環境にある。人材育成のための健全な環境を整えるためには、ウィキペディア上に良質な記事が掲載されていなければならない。

[「日本の大学生のWikipediaに対する信憑性認知、学習における利用実態とそれらに影響を与える要因」という研究](#)は、次のように報告している:

分析の結果、回答者はWikipediaをどちらかと言えば信憑性のあるものと考えており、レポート作成等にも用いているが、参考文献には挙げない傾向があること等がわかった。

このような利用のされ方は、決して高等教育において好ましいものではない。このような問題について、一般的には「リテラシー教育」による解説が唱えられることが多い。しかし、他方には「専門家自らウィキペディア上に良質な記事を書く」という選択肢もある。

そこで私(石橋)は、ウィキペディア記事「ユーザーエクスペリエンス」を自ら書き換えたいと思う。

現状の分析 ～ なにが問題なのか

〔2016年12月28日時点の情報に基づく〕

ウィキペディア日本語版の「[ユーザーエクスペリエンスデザイン](#)」という記事には、以下のような問題がある。

「ユーザーエクスペリエンスデザイン」の記事はあるが、「ユーザーエクスペリエンス」の記事がない

まず「ユーザーエクスペリエンス」の記事があるべきだ。そのうえで、

- 「デザイン」というセクションを「ユーザーエクスペリエンス」の記事中に設けるか、
- 「ユーザーエクスペリエンスデザイン」の記事を「ユーザーエクスペリエンス」の記事とは別にするか

という選択肢が生じる。ともかく、まずは前者から考えるべきだ。記事を分けるほどの分量および特筆性があると判断した時点で、はじめて記事を分ければよい。[参考: [ページの分割と統合](#)、[独立記事作成の目安](#)]

なお、「ユーザーエクスペリエンスデザイン」を独立記事にしなくても、ウィキペディアの[リダイレクト](#)機能で「ユーザーエクスペリエンスデザイン」という記事名の別名をつけることができる。なおさら独立記事にすべき特別な理由がなければ、同一記事でよいと言える。

ガイドラインに照らした品質の低さ

ウィキペディアの三大方針は「[検証可能性](#)」「[中立的な観点](#)」「[独自研究は載せない](#)」である。また、ガイドラインにおいて「[出典を明記すること](#)」が要請されている。しかし、現時点の「ユーザーエクスペリエンスデザイン」の記事内容は、ガイドラインに照らせば品質が低いと言わざるを得ない。

すでに記事編集者からも「ページの問題点」として指摘されている:

この記事は検証可能な参考文献や出典が全く示されていないか、不十分です。
出典を追加して記事の信頼性向上にご協力ください。(2010年9月)

ここは記事全体をゼロベースで書き直すことにしたい。専門家の間で定評のある文献を参照しながら、出典を明記しながら、既存の記事内容を丸ごと入れ替える方針だ。なお、ガイドラインでも「[ページに編集は大胆に](#)」と推奨されている。

なお、ウィキペディア上の記事の品質については、「[良質な記事](#)」「[秀逸な記事](#)」「[完璧な記事](#)」「[査読依頼](#)」といった議論がある。

編集方針 ～ どのように書き直すのか

以上の分析を踏まえて、

- 「ユーザーエクスペリエンス」の記事を新規に書き起こす（「デザイン」のセクションを含む）
- 既存の「ユーザーエクスペリエンスデザイン」の記事内容は破棄し、「ユーザーエクスペリエンス」へのリダイレクトを設定する

という編集方針とする。

また、記事を書き起こす際に参照する「[信頼できる情報源](#)」として、

- [UXデザインの教科書](#). 安藤昌也著. 丸善出版. 2016.5.
- [人間中心設計の基礎](#). 黒須正明著; 黒須正明ほか編. (HCDライブラリー, 第1巻). 近代科学社. 2013.5.
- [UX白書\(日本語版\)](#). Virpi Roto et al; hcdvalue訳. 2011.2.
- [意味論的転回—デザインの新しい基礎理論](#). クラウス・クリッペンドルフ著; 小林明世 [ほか] 訳. エスアイビーアクセス. 2009.4.

などを用いることとする。

なお、ウィキペディアの「[スタイルマニュアル](#)」にできるだけ準拠する。

目標

理想として「秀逸な記事」を目指しつつ、現実的には少なくとも「良質な記事」の実現を目標とする。

秀逸な記事

今回のプロジェクトでは、（高すぎる理想かもしれないが、プロジェクト発足にあたっての「気概」としては）下記の基準を満たす「[秀逸な記事](#)」を目指したい：

1. その主題を扱う専門家（研究者、実務家、その他）から見て、百科事典において必ず説明されるべきことが全て説明されている。ただし、何が必須かは部分的には関連記事との連携・分担関係にもよる。
2. 詳しくない読者にもその主題について理解できるように、わかりやすく書かれている。ただし、高度に専門的な主題を扱ったものであれば、関連記事を読んで理解していることを前提にするのは問題ない。
3. 内容が充実している。必須の点だけをわかりやすくカバーしただけでは不十分。
4. 完成度が高い。文章が読みやすい、構成がしっかりしている、明らかに未完成な部分がない、（可能なら）図や画像や表などがついている、など。

5. 観点の中立性が保たれている。
6. 必要な出典が記事全体を通して十分に挙げられており、個々の記述の根拠が脚注や本文中で明らかにされている。特に、肯定的・否定的・主観的な表現については出典が付けられていることが望ましい。
7. 以上の点が全て満たされている。

良質な記事

「秀逸な記事」よりは低いですが、しかし十分な品質基準として、「[良質な記事の目安](#)」も示されている：

- 項目に記述されるべきトピックがある程度網羅され、検証可能性が信頼できる情報源によって担保されている。
- 独自研究になっていない。
- 中立的な観点からの記述がなされている。
- [Wikipedia:スタイルマニュアル](#)に沿った文章スタイルが取り入れられている。
- 以上の点が全て満たされている。

〔この文書は随時更新される予定です。〕